

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果

嘉麻市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

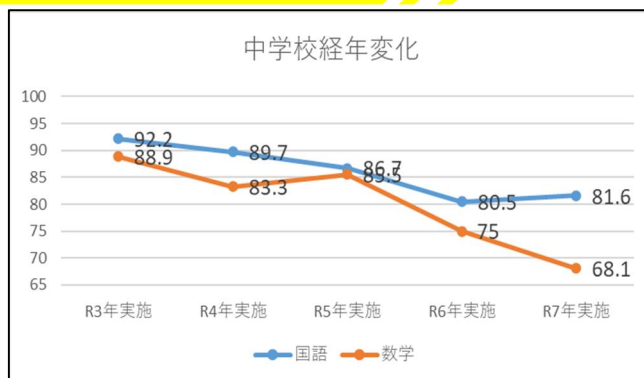
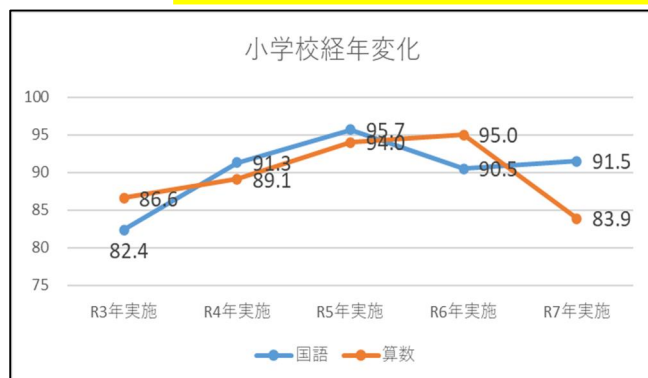
2 調査対象の学年

小学校及び義務教育学校第 6 学年（以下、小学校という）、
中学校第 3 学年及び義務教育学校第 9 学年（以下、中学校という）

3 調査の内容

- ① 教科に関する調査：小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学、英語
- ② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査
[児童生徒に対する調査、学校に対する調査]

めざせ！全国平均正答数超え！！



上記のグラフで表示している数値は、全国の平均正答数を 100 とした場合の標準化得点です。全国との比較では、小学校において、国語（－8.5P）、算数（－16.1P）、中学校において、国語（－18.4P）、数学（－31.9P）の差でした。

【成果】

- 小学校については、令和 3 年から令和 6 年にかけて向上傾向にあります。その中で、小学校、中学校とも国語では 1P 向上しました。

【課題】

- 小学校の算数においては、今まで身に付けた数理を適切に用いて、数学的な見方・考え方を働かせ問題解決を図る思考力に課題が見られます。
- 中学校の数学においては、基礎基本の定着が課題です。また、無回答率が高いことから、あきらめず取り組み態度にも課題を感じます。
- 小・中学校とも、全国と比較して学力四分位層の C・D 層の割合が高い状況にあります。

【改善策】

- 子どもが進んで問題解決を図る授業づくりを推進することで、主体的に取り組む態度とともに、思考力・判断力・表現力の育成を図ります。
- 小・中学校とも、単元テストをもとに短いスパンで評価することを通して、一人一人の学習の定着状況を見とるとともに、個に応じた授業づくりを推進し、C・D 層の子どもの学力向上を図ります。
- 家庭学習の充実や帯学習の取組など、組織的な学力向上の取組を構築することを通して、基礎基本の定着を図ります。